

アジア防災閣僚級会合に出席しました（2016/11/2-4）

テーマ：国際連携、世界防災フォーラム、APRU、マルチハザード
場所：ニューデリー

インドのニューデリーにおいてアジア防災閣僚級会合が開催され、当研究所の情報管理・社会連携部門から小野裕一教授と泉貴子特任准教授が参加しました。この会議には 60 カ国以上から国の代表や防災関係者が出席し、様々なセッションや展示が行われました。

11月2日には、小野教授と泉特任准教授がアジア科学技術アカデミアステークホルダー会議に出席し、世界防災フォーラムと APRU 活動について発表しました。11月3日には、小野教授が国連アジア太平洋経済社会委員会（E SCAP）と世界気象機関（WMO）が主催した「Multi Hazard Early Warning Systems : Increasing Availability of and Access to Multi-Hazard Early Warning Systems」というテーマ別セッションで、東日本大震災の経験を交えて早期警報システムの重要性と課題について発表しました。泉特任准教授は、APRU が力を入れている学術と実践の連携について IFRC（国際赤十字連盟）、IRDR(災害リスク統合研究)と協議し、ニーズを基盤とする研究を推進するとともに、事例の収集などに着手することで合意しました。11月4日には、小野教授が E SCAP 主催の「Information Management: Regional Cooperation for Addressing the Gaps in Information and Knowledge for Disaster Risk Reduction」というテーマ別セッションで、ICT を活用した災害統計グローバルセンターの活動について発表するとともに、国連開発計画（UNDP）が主催した「Disaster Loss Accounting and Data : Partnerships and Innovations for Improving Disaster Loss Accounting」というテーマ別セッションでは、エビデンスに基づいた防災政策をとることの重要性を述べ、世界防災フォーラムについても概要の説明をしました。また、泉特任准教授は、UNOSA（国連宇宙局）、ASTAAG（アジア科学技術アカデミアアドバイザリーグループ）が主催する「Application of Science and Technology for DRR」というテーマ別セッションにパネリストとして出席し、APRU をはじめとする大学ネットワークの活動やエルセヴィアと共同で作成した現在の災害関連研究に関するデータについて発表しました。また、ASTAAG のメンバーとネパール復興庁長官との会議に、ASTAAG メンバーである泉特任准教授が出席し、ネパール地震からの復興と ASTAAG との連携について意見交換を行いました。

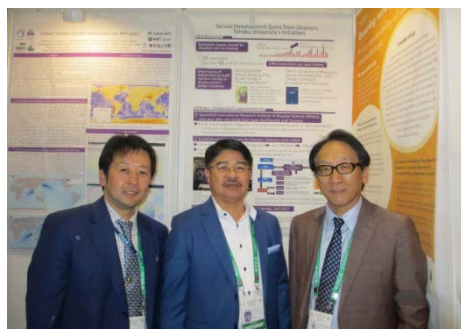
次回 2018 年のアジア防災閣僚級会合はモンゴルで開催される予定です。



小野教授の発表



泉特任准教授の発表



今村所長と小野教授（展示会場にて）



ネパール復興庁長官と ASTAAG の意見交換

文責：小野裕一、泉貴子（情報管理・社会連携部門）